スキャンデータの非推奨化

BlueXP classification

NetApp
June 14, 2024

目次

スキャンデータの非推奨化

Amazon S3バケットをスキャン

BlueXPの分類では、Amazon S3バケットをスキャンして、S3オブジェクトストレージに格納された個人データと機密データを特定できます。BlueXPの分類では、NetApp解決策 用に作成されたバケットかどうかに関係なく、アカウント内の任意のバケットをスキャンできます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1 クラウド環境で **S3** の要件を設定します

お使いのクラウド環境がBlueXPの分類要件を満たしていることを確認します。これには、IAMロールの準備やBlueXPの分類からS3への接続の設定などが含まれます。 すべてのリストを参照してください。

2 **BlueXP**分類インスタンスを導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

3 **S3**作業環境で**BlueXP**分類をアクティブ化します

Amazon S3 作業環境を選択し、 * Enable * をクリックして、必要な権限を含む IAM ロールを選択します。

4 スキャンするバケットを選択します

スキャンするバケットを選択すると、BlueXPの分類によってスキャンが開始されます。

S3 の前提条件の確認

S3 バケットのスキャンに固有の要件を次に示します。

BlueXP分類インスタンス用の**IAM**ロールを設定します

BlueXPの分類には、アカウント内のS3バケットに接続してスキャンするための権限が必要です。以下の権限を含む IAM ロールを設定します。Amazon S3作業環境でBlueXPの分類を有効にすると、IAMロールを選択するように求められます。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
      {
          "Effect": "Allow",
          "Action": [
              "s3:Get*",
              "s3:List*",
              "s3:PutObject"
          ],
          "Resource": "*"
      },
      {
          "Effect": "Allow",
          "Action": [
              "iam:GetPolicyVersion",
              "iam:GetPolicy",
              "iam:ListAttachedRolePolicies"
          ],
          "Resource": [
              "arn:aws:iam::*:policy/*",
              "arn:aws:iam::*:role/*"
          ]
      }
  ]
}
```

BlueXP分類から**Amazon S3**への接続を提供します

BlueXPの分類にはAmazon S3への接続が必要です。この接続を確立する最善の方法は、 VPC エンドポイントを介して S3 サービスに接続することです。手順については、を参照してください "AWS のドキュメント：「 Creating a Gateway Endpoint"。

VPCエンドポイントを作成するときは、BlueXP分類インスタンスに対応するリージョン、VPC、およびルーティングテーブルを選択してください。S3 エンドポイントへのトラフィックを有効にする発信 HTTPS ルールを追加するには、セキュリティグループも変更する必要があります。そうしないと、BlueXPの分類からS3サービスに接続できません。

問題が発生した場合は、を参照してください "AWSのサポートナレッジセンター：ゲートウェイVPCエンドポイントを使用してS3バケットに接続できないのはなぜですか。"

別の方法として、 NAT ゲートウェイを使用して接続を提供する方法があります。

インターネット経由で S3 にアクセスするためにプロキシを使用することはできません。

BlueXP分類インスタンスの導入

"BlueXPでBlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

AWSに導入されているコネクタを使用してインスタンスを導入する必要があります。これにより、BlueXPはこのAWSアカウント内のS3バケットを自動的に検出し、Amazon S3作業環境に表示します。

注： S3バケットのスキャン時にオンプレミス環境へのBlueXP分類の導入は現在サポートされていません。

インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

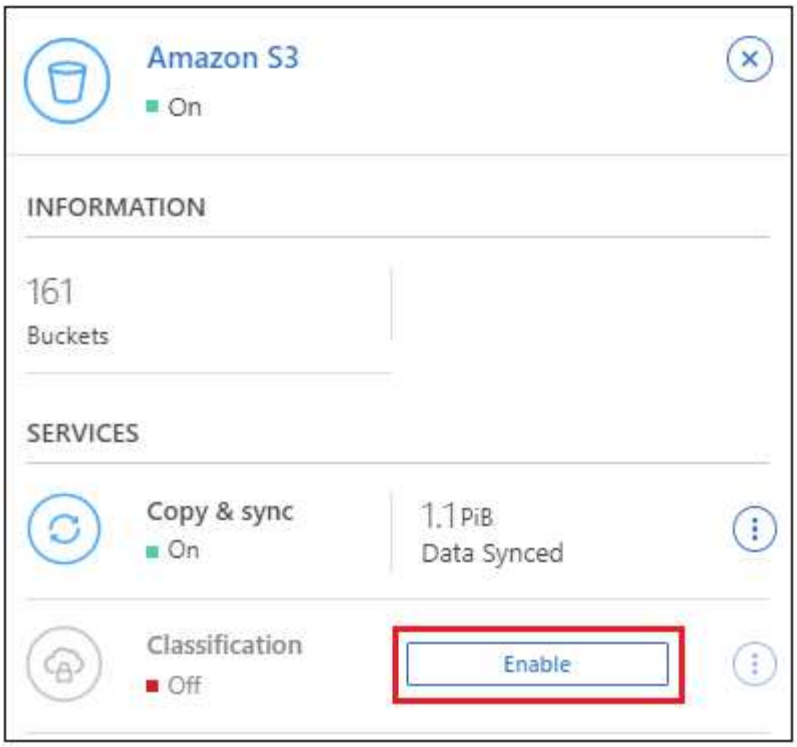
S3作業環境でBlueXP分類をアクティブ化します

前提条件を確認したら、Amazon S3でBlueXPの分類を有効にします。

手順

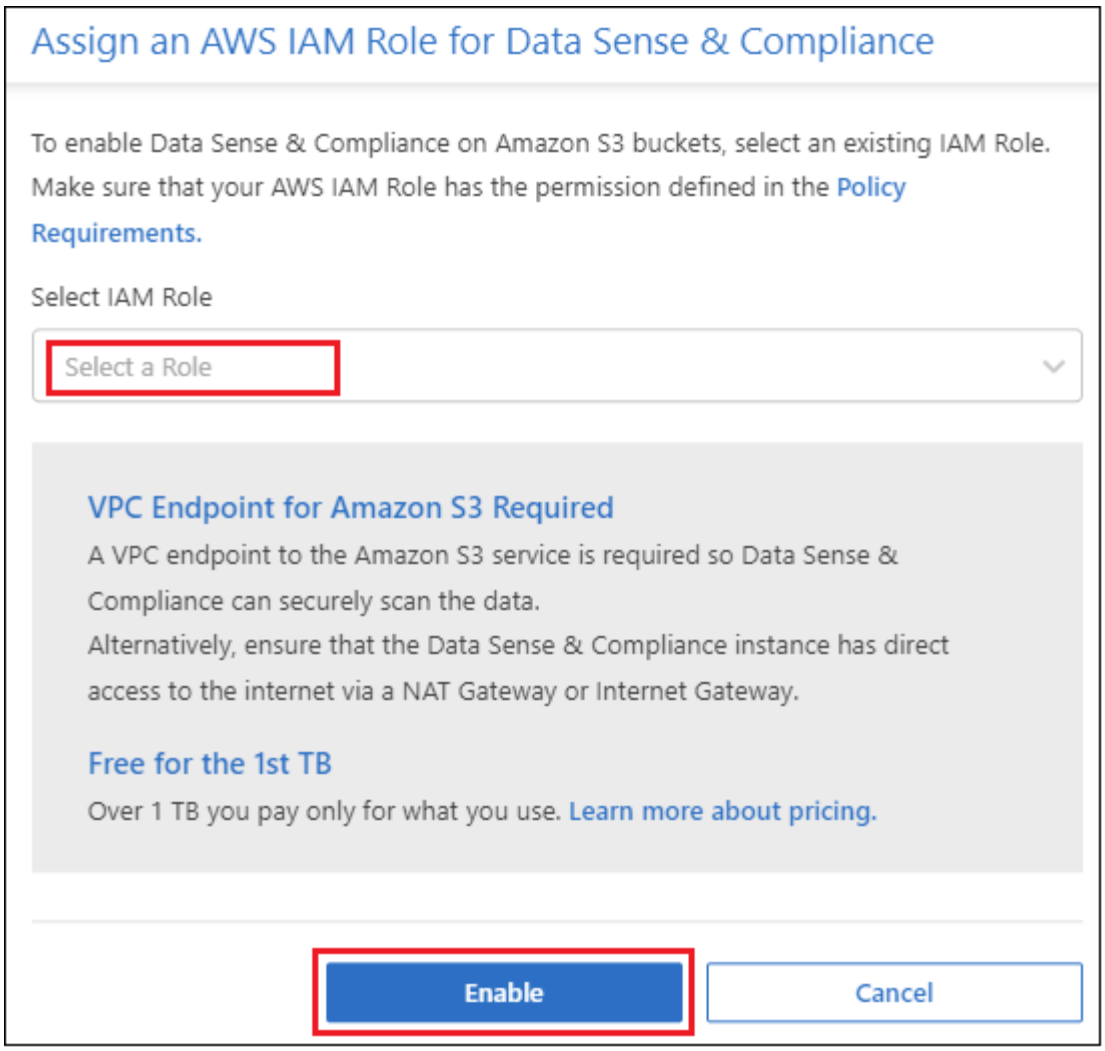
1. BlueXPの左ナビゲーションメニューから、*Storage > Canvas *をクリックします。
2. Amazon S3 作業環境を選択します。

3. 右側の[サービス]ペインで、[分類]の横にある*[有効化]*をクリックします。



パネルでBlueXP分類サービスを有効にするスクリーンショット"]

4. プロンプトが表示されたら、を含むBlueXP分類インスタンスにIAMロールを割り当てます 必要な権限。



5. [**Enable**] をクリックします。

また、作業環境のコンプライアンススキャンを有効にすることもできます Configuration ページでをクリックします ボタンをクリックし、*[BlueXP分類のアクティブ化]*を選択します。

結果

BlueXPは、インスタンスにIAMロールを割り当てます。

S3 バケットでの準拠スキャンの有効化と無効化

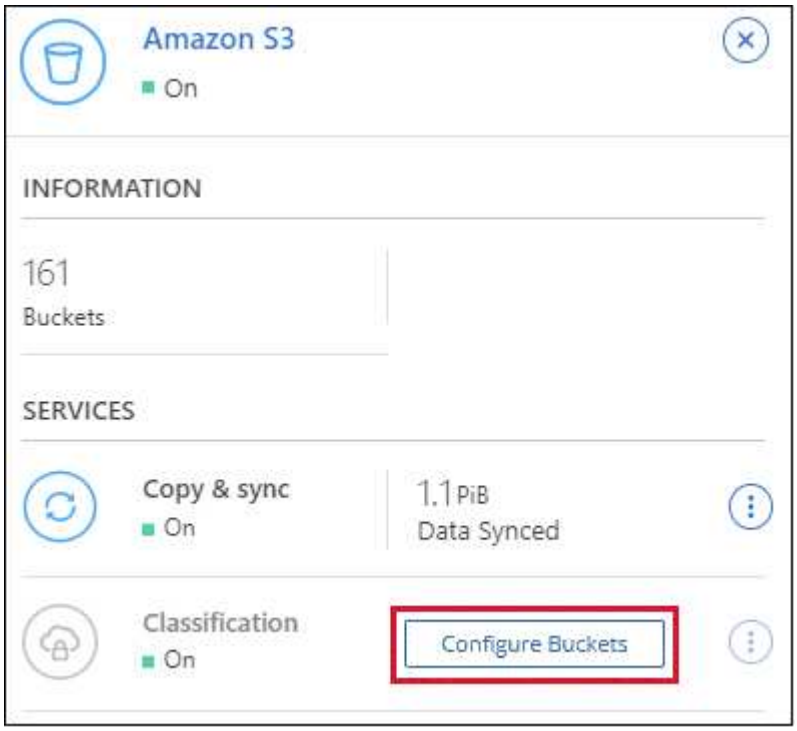
Amazon S3でBlueXPの分類を有効にしたら、次にスキャンするバケットを設定します。

スキャンするS3バケットを含むAWSアカウントでBlueXPを実行している場合、そのバケットが検出され、Amazon S3作業環境で表示されます。

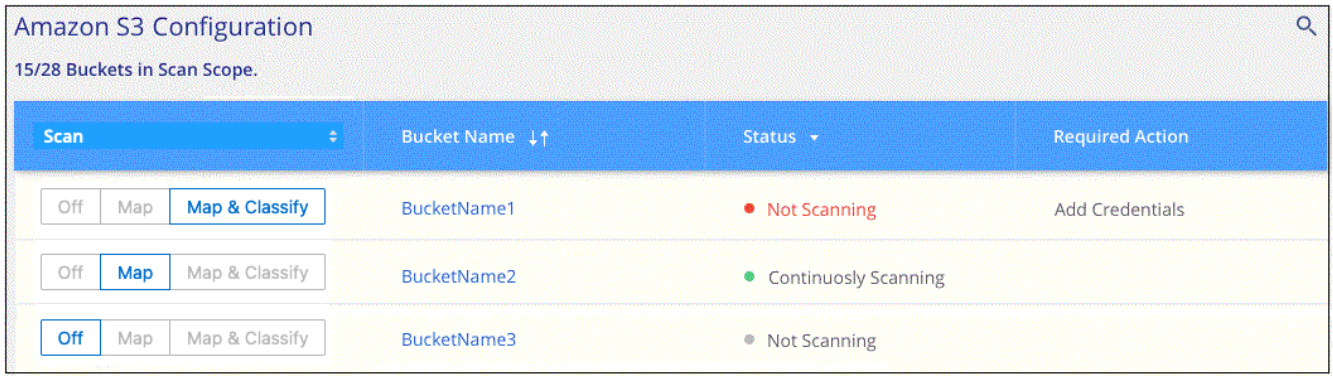
BlueXPに分類することもできます 別々の AWS アカウントにある S3 バケットをスキャンします。

手順

1. Amazon S3 作業環境を選択します。
2. 右側の[Services]ペインで、*[Configure Buckets]*をクリックします。



3. バケットでマッピング専用スキャン、またはマッピングスキャンと分類スキャンを有効にします。



終了：	手順：
バケットでマッピングのみのスキャンを有効にする	[* マップ *] をクリックします
バケットでフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
バケットに対するスキャンを無効にする	[* Off *] をクリックします

結果

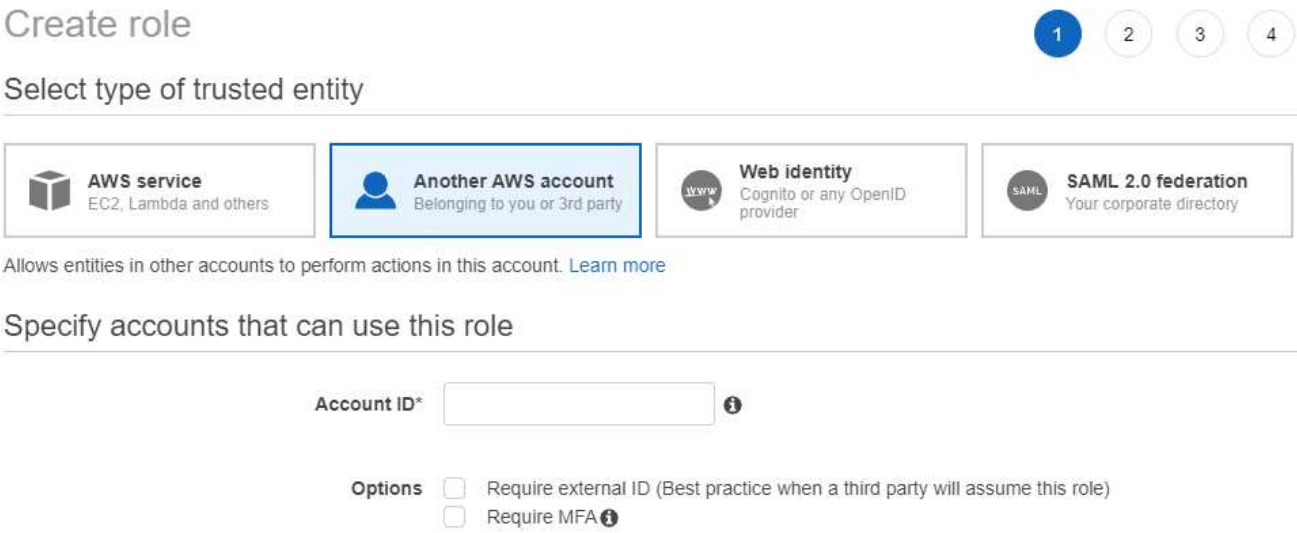
BlueXPの分類で、有効にしたS3バケットのスキャンが開始されます。エラーが発生した場合は、エラーを修正するために必要なアクションとともに、 [ステータス] 列に表示されます。

追加の **AWS** アカウントからバケットをスキャンする

別のAWSアカウントにあるS3バケットをスキャンするには、そのアカウントからロールを割り当てて既存のBlueXP分類インスタンスにアクセスします。

手順

1. S3 バケットをスキャンするターゲット AWS アカウントに移動し、 * 別の AWS アカウント * を選択して IAM ロールを作成します。



必ず次の手順を実行してください。

- BlueXP分類インスタンスが配置されているアカウントのIDを入力します。
- 最大 CLI / API セッション期間 * を 1 時間から 12 時間に変更し、変更を保存してください。
- BlueXP分類IAMポリシーを適用します。必要な権限があることを確認します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
      {
          "Effect": "Allow",
          "Action": [
              "s3:Get*",
              "s3:List*",
              "s3:PutObject"
          ],
          "Resource": "*"
      },
  ]
}
```

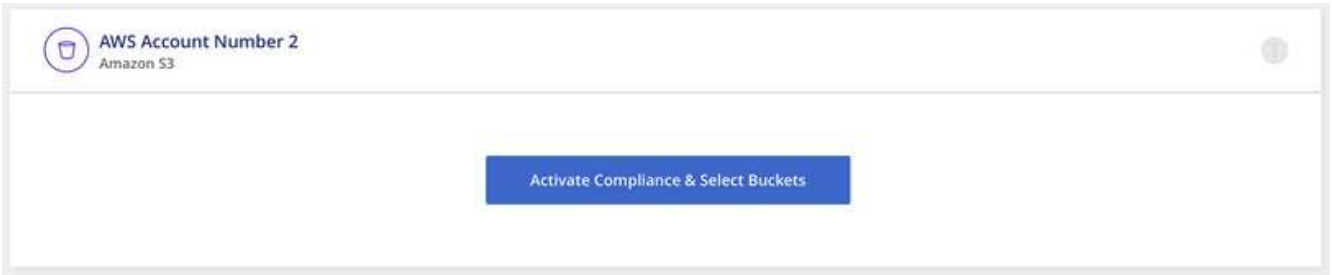
2. BlueXP分類インスタンスが配置されているソースAWSアカウントに移動し、インスタンスに関連付けられているIAMロールを選択します。
   a. 最大 CLI / API セッション期間 * を 1 時間から 12 時間に変更し、変更を保存してください。
   b. [* ポリシーの適用 *] をクリックし、 [ポリシーの作成 *] をクリックします。
   c. 「 STS ： AssumeRole 」アクションを含むポリシーを作成し、ターゲットアカウントで作成したロ

ールの ARN を指定します。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "sts:AssumeRole",
            "Resource": "arn:aws:iam::<ADDITIONAL-ACCOUNT-
ID>:role/<ADDITIONAL_ROLE_NAME>"
        },
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:GetPolicyVersion",
                "iam:GetPolicy",
                "iam:ListAttachedRolePolicies"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:iam::*:policy/*",
                "arn:aws:iam::*:role/*"
            ]
        }
    ]
}
```

BlueXP分類インスタンスのプロファイルアカウントから、追加のAWSアカウントにアクセスできるようになりました。

3. Amazon S3 Configuration * ページに移動し、新しい AWS アカウントが表示されます。BlueXPの分類によって新しいアカウントの作業環境が同期され、この情報が表示されるまでに数分かかることがあります。



4. [Activate BlueXP classification & Select Buckets]*をクリックし、スキャンするバケットを選択します。

結果

BlueXPの分類で、有効にした新しいS3バケットのスキャンが開始されます。

OneDriveアカウントのスキャン

BlueXP分類を使用して、ユーザーのOneDriveフォルダ内のファイルのスキャンを開始するには、いくつかの手順を実行します。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1 **OneDrive** の前提条件を確認します

OneDrive アカウントにログインするための管理者資格情報があることを確認してください。

2 **BlueXP**分類インスタンスを導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

3 **OneDrive** アカウントを追加します

Admin ユーザクレデンシャルを使用して、アクセスする OneDrive アカウントにログインし、新しい作業環境として追加します。

4 ユーザを追加して、スキャンのタイプを選択します

スキャンするユーザのリストを OneDrive アカウントから追加し、スキャンのタイプを選択します。一度に最大 100 人のユーザを追加できます。

OneDrive の要件を確認する

BlueXPの分類を有効にする前に、次の前提条件を確認して、サポートされる構成があることを確認してください。

- ユーザのファイルに読み取りアクセスを提供するOneDrive for Businessアカウントの管理者ログインクレデンシャルが必要です。
- OneDriveフォルダをスキャンするすべてのユーザーに対して、電子メールアドレスの行区切りリストが必要です。

BlueXP分類インスタンスの導入

導入されているインスタンスがない場合は、BlueXP分類を導入します。

BlueXPには次のように分類できます "クラウドに導入" または "インターネットにアクセスできるオンプレミ

スの場所"。

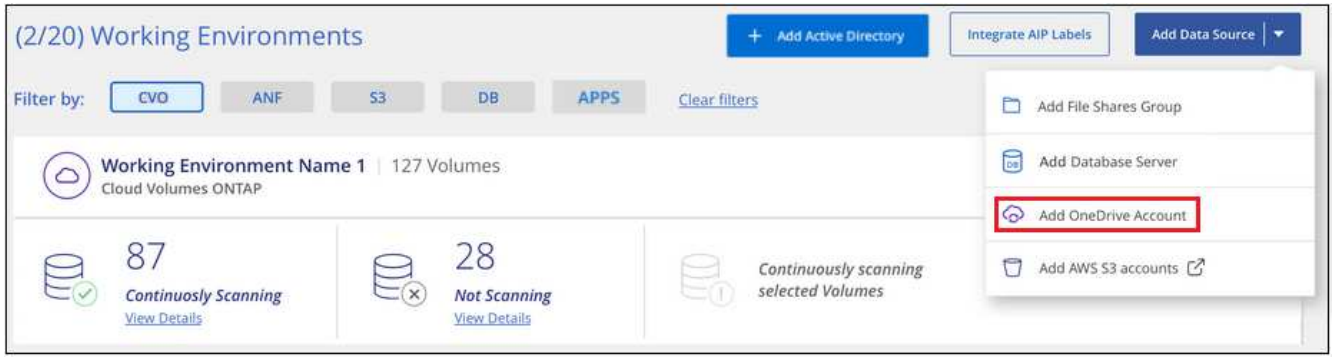
インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

OneDrive アカウントを追加します

ユーザファイルが存在する OneDrive アカウントを追加します。

手順

1. [作業環境の構成] ページで、 [* データソースの追加 **>]** 、 **[** OneDrive アカウントの追加 *] の順にクリックします。



ボタンをクリックできる [スキャン構成] ページのスクリーンショット。"]

2. [OneDrive アカウントの追加] ダイアログで、 [* OneDrive にサインイン] をクリックします。
3. 表示された[Microsoft]ページで、OneDriveアカウントを選択して必要な管理者ユーザとパスワードを入力し、*[同意する]*をクリックしてBlueXP分類によるこのアカウントからのデータの読み取りを許可します。

OneDrive アカウントが作業環境の一覧に追加されます。

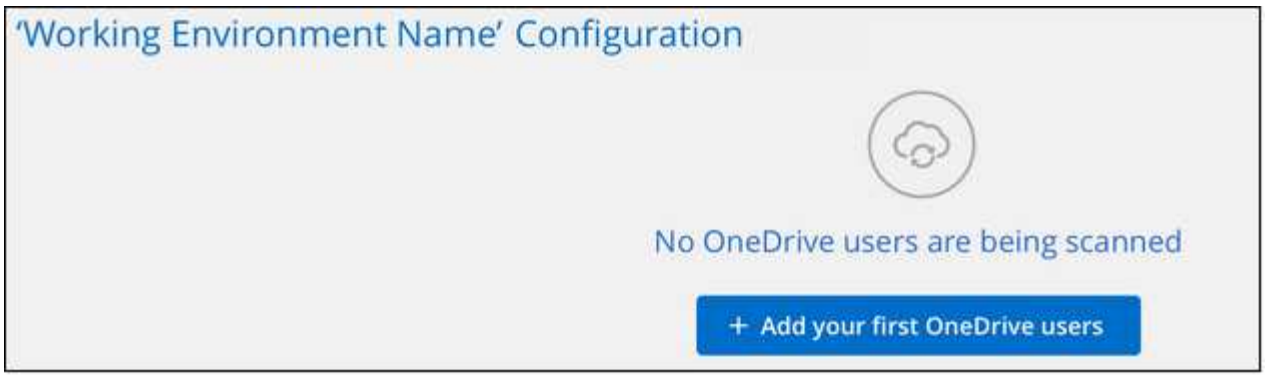
OneDrive ユーザーをコンプライアンススキャンに追加する

個 々 のOneDriveユーザまたはすべてのOneDriveユーザを追加して、BlueXPの分類によってファイルがスキャンされるようにすることができます。

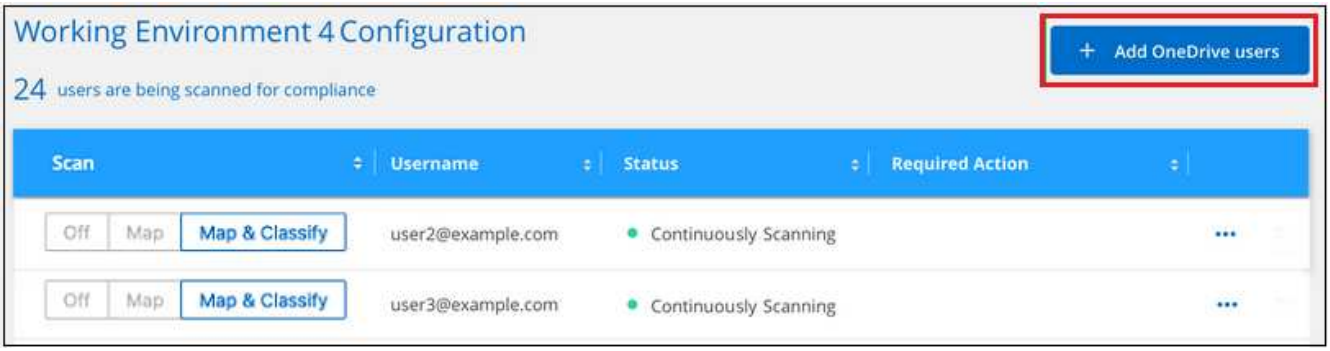
手順

1. [*Configuration*] ページで、 OneDrive アカウントの [* 構成 *] ボタンをクリックします。

2. この OneDrive アカウントに初めてユーザーを追加する場合は、 [* 最初の OneDrive ユーザーを追加する *] をクリックします。

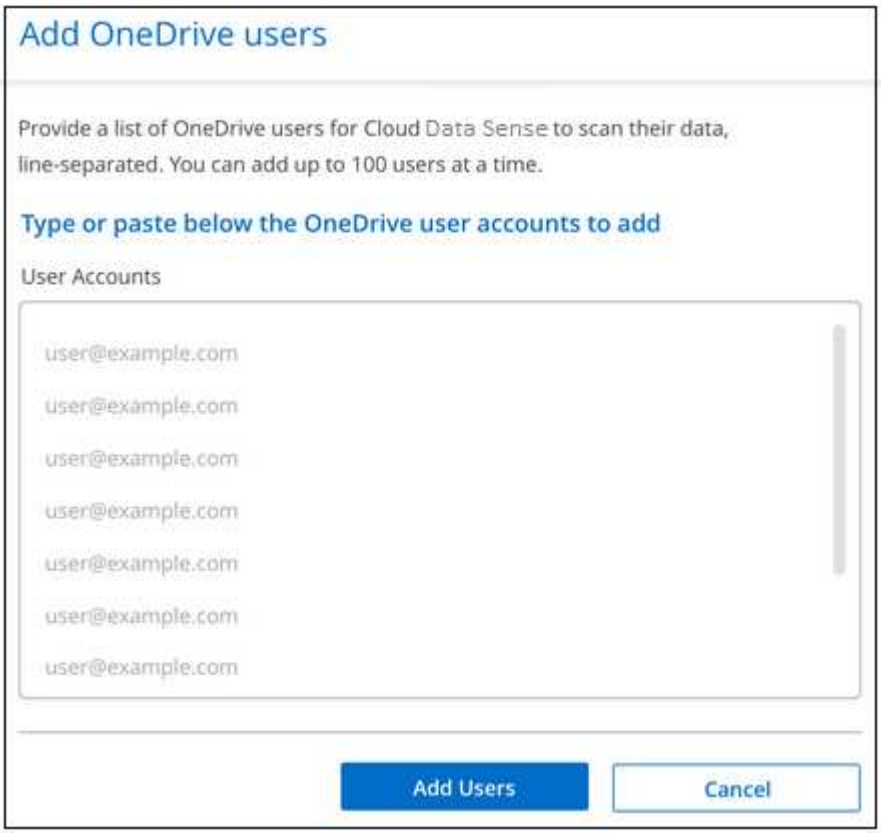


OneDrive アカウントからユーザーを追加する場合は、 [* OneDrive ユーザーの追加 *] をクリックします。



ボタンを示すスクリーンショット。"]

3. ファイルをスキャンするユーザーの電子メールアドレスを 1 行に 1 つ追加し（セッションあたり最大 100 件）、 [ユーザーの追加] をクリックします。



ページのスクリーンショット。"]

確認ダイアログに、追加されたユーザの数が表示されます。

ダイアログに追加できなかったユーザが表示される場合は、この情報を記録して問題を解決します。修正した E メールアドレスを使用してユーザを再追加できる場合もあります。

4. ユーザファイルに対して、マッピング専用スキャン、またはマッピングおよび分類スキャンをイネーブルにします。

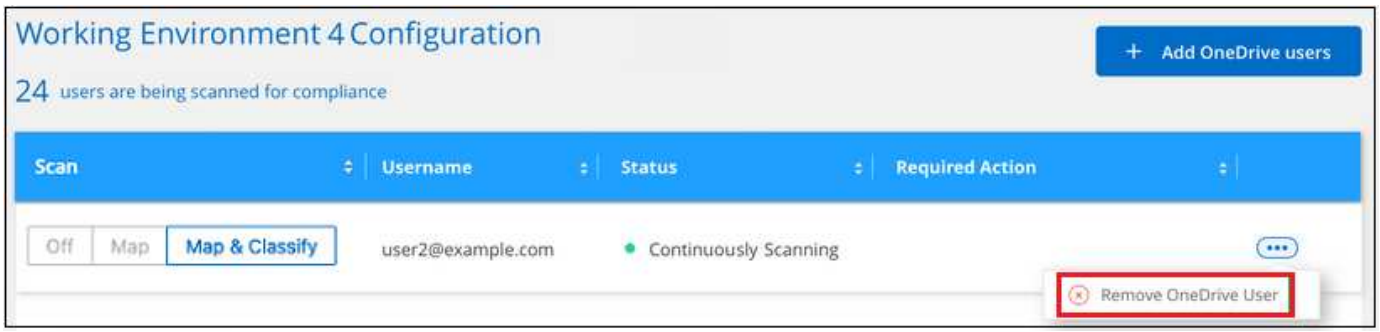
終了：	手順：
ユーザファイルに対してマッピングのみのスキャンを有効にします	[* マップ *] をクリックします
ユーザファイルのフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
ユーザファイルのスキャンを無効にします	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類により、追加したユーザのファイルのスキャンが開始され、その結果がダッシュボードと他の場所に表示されます。

OneDrive ユーザーをコンプライアンススキャンから削除します

ユーザが会社から退出した場合や、 E メールアドレスが変更された場合、個々の OneDrive ユーザがいつでもファイルをスキャンできないようにすることができます。[構成] ページで [OneDrive ユーザーの削除] をクリックします。



SharePointアカウントのスキャン

BlueXPで分類されたSharePoint OnlineアカウントとSharePointオンプレミスアカウントのファイルのスキャンを開始するには、いくつかの手順を実行します。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1 **SharePoint**の前提条件を確認する

SharePointアカウントにログインするための資格を持つ資格情報があり、スキャンするSharePointサイトのURLがあることを確認します。

2 **BlueXP**分類インスタンスを導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

3 **SharePoint**アカウントにログインします

資格のあるユーザクレデンシャルを使用して、アクセスするSharePointアカウントにログインし、新しいデータソース/作業環境として追加します。

4 スキャンする**SharePoint**サイトの**URL**を追加します

SharePoint アカウントでスキャンする SharePoint サイト URL のリストを追加し、スキャンの種類を選択します。一度に最大100個のURLを追加でき、アカウントごとに合計1,000個のサイトを追加できます。

SharePointの要件を確認する

SharePointアカウントでBlueXP分類をアクティブ化する準備ができていることを確認するには、次の前提条件を確認してください。

- すべてのSharePointサイトへの読み取りアクセスを提供するSharePointアカウントの管理者ユーザーのログイン資格情報が必要です。
  - SharePoint Onlineの場合、管理者以外のアカウントを使用できますが、スキャンするすべてのSharePointサイトにアクセスするには、そのユーザーに権限が必要です。
- SharePoint On-Premiseについては、SharePoint ServerのURLも必要です。
- スキャンするすべてのデータについて、 SharePoint サイトの URL の行区切りリストが必要です。

BlueXP分類インスタンスを導入します

導入されているインスタンスがない場合は、BlueXP分類を導入します。

- SharePoint Onlineでは、BlueXPは次のように分類できます "クラウドに導入"。
- オンプレミスのSharePointの場合は、BlueXPの分類をインストールできます "インターネットにアクセスできるオンプレミスの場所" または "インターネットにアクセスできないオンプレミスの場所"。

インターネットにアクセスできないサイトにBlueXP分類がインストールされている場合は、インターネットにアクセスできない同じサイトにもBlueXP Connectorをインストールする必要があります。 "詳細はこちら。"。

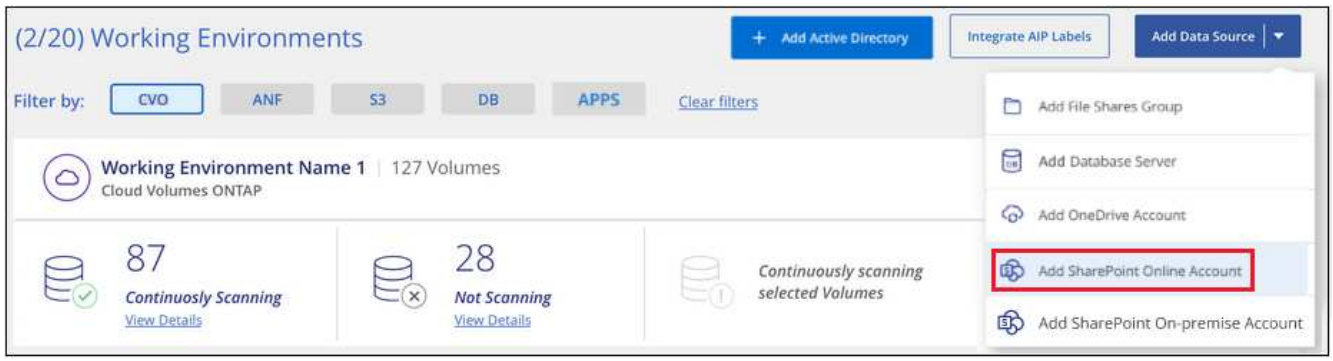
インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

SharePoint Onlineアカウントを追加する

ユーザーファイルが存在するSharePoint Onlineアカウントを追加します。

手順

1. [作業環境の構成] ページで、 [* データソースの追加 > SharePoint Online アカウントの追加 *] をクリックします。



ボタンをクリックできる[構成]ページのスクリーンショット。"]

2. [SharePoint Online アカウントの追加] ダイアログで、 [* SharePoint にサインインする *] をクリックします。
3. 表示された[Microsoft]ページで、SharePointアカウントを選択してユーザとパスワード（管理者ユーザまたはSharePointサイトにアクセスできる他のユーザ）を入力し、*[同意する]*をクリックしてBlueXP分類によるこのアカウントからのデータの読み取りを許可します。

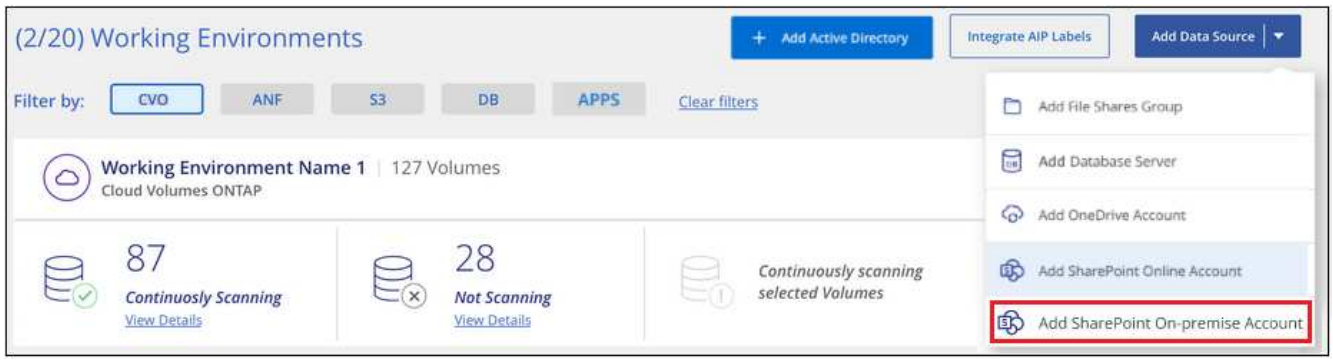
SharePoint Onlineアカウントが作業環境のリストに追加されます。

SharePointオンプレミスアカウントを追加する

ユーザーファイルが存在するSharePointオンプレミスアカウントを追加します。

手順

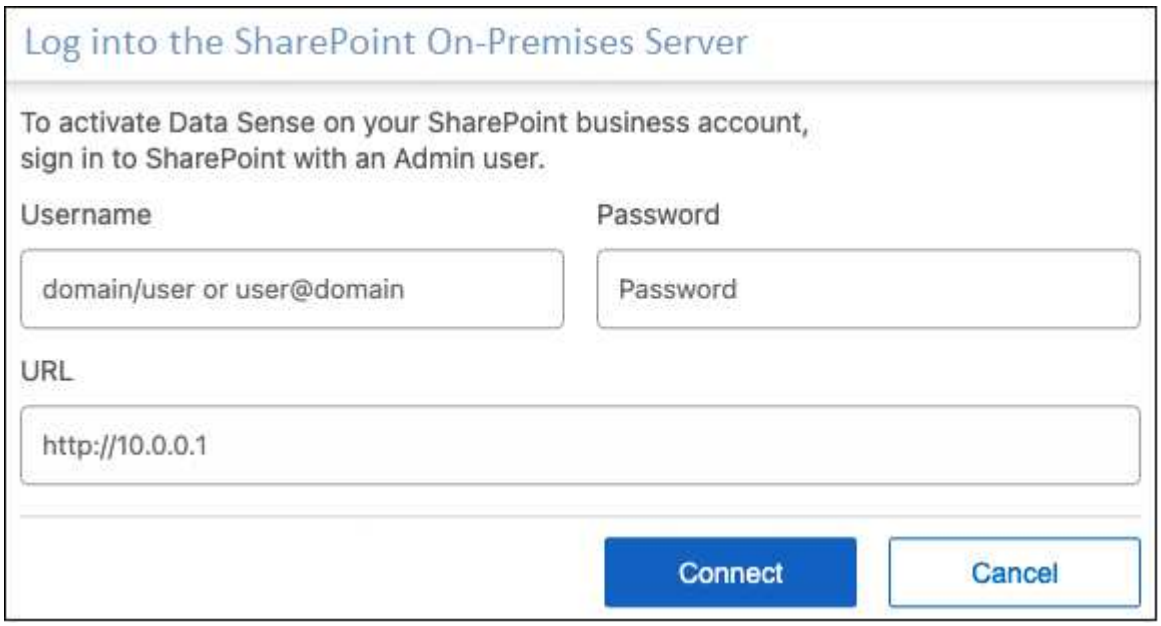
1. [作業環境の構成]ページで、[データソースの追加>* SharePointオンプレミスアカウントの追加*]をクリックします。



ボタンをクリックできる[構成]ページのスクリーンショット。"]

2. [SharePoint On-Premise Server]ダイアログで、次の情報を入力します。
   - 「domain/user」または「user@domain」の形式の管理ユーザとadminパスワード

◦ SharePoint ServerのURL



3. [接続] をクリックします。

SharePointのオンプレミスアカウントが作業環境のリストに追加されます。

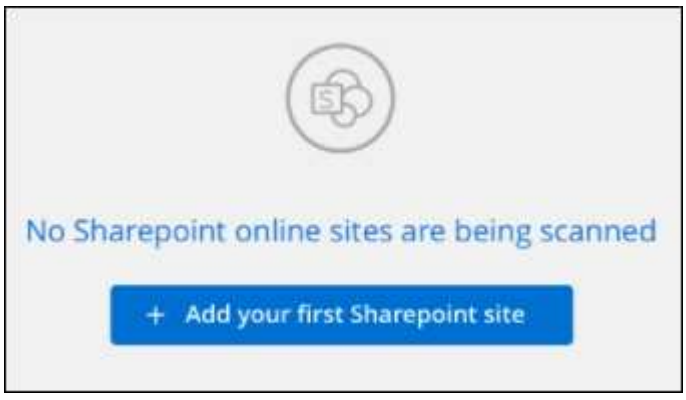
SharePointサイトをコンプライアンススキャンに追加する

個 々 のSharePointサイトを追加することも、アカウントに最大1、000のSharePointサイトを追加して、関連するファイルがBlueXPの分類によってスキャンされるようにすることもできます。SharePoint OnlineサイトとSharePointオンプレミスサイトのどちらを追加する場合でも、手順は同じです。

手順

1. [*Configuration*] ページで、 SharePoint アカウントの [**Configuration**] ボタンをクリックします。

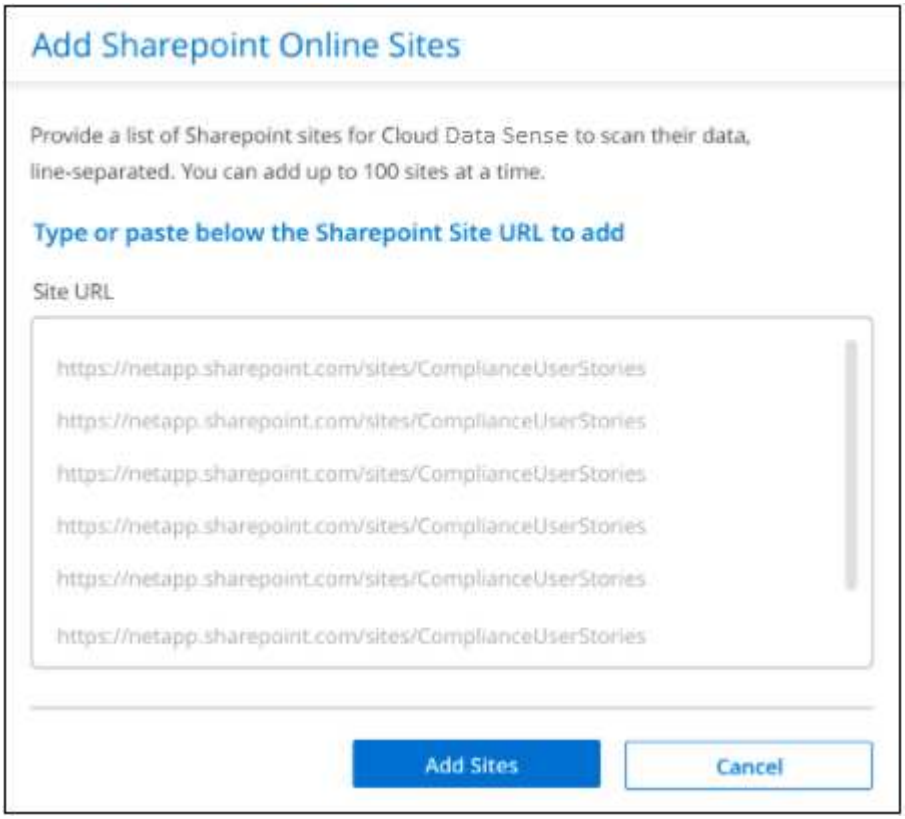
2. この SharePoint アカウントのサイトを初めて追加する場合は、 [* 最初の SharePoint サイトを追加する *] をクリックします。



ボタンを示すスクリーンショット。"]

SharePoint アカウントからユーザーを追加する場合は、 [* SharePoint サイトの追加 *] をクリックします。

3. スキャンするファイルがあるサイトの URL を 1 行に 1 つ追加し（セッションあたり最大 100 URL ）、 [サイトの追加] をクリックします。



確認ダイアログに追加されたサイトの数が表示されます。

ダイアログに追加できなかったサイトが表示された場合は、問題 を解決できるようにこの情報を記録します。場合によっては、 URL を修正してサイトを再追加することができます。

4. このアカウントに100を超えるサイトを追加する必要がある場合は、[SharePointサイトの追加]*をもう一度クリックして、このアカウントのすべてのサイトを追加します(アカウントごとに合計1,000サイトまで)。
5. SharePoint サイト内のファイルに対して、マッピングのみのスキャン、またはマッピングと分類スキャンを有効にします。

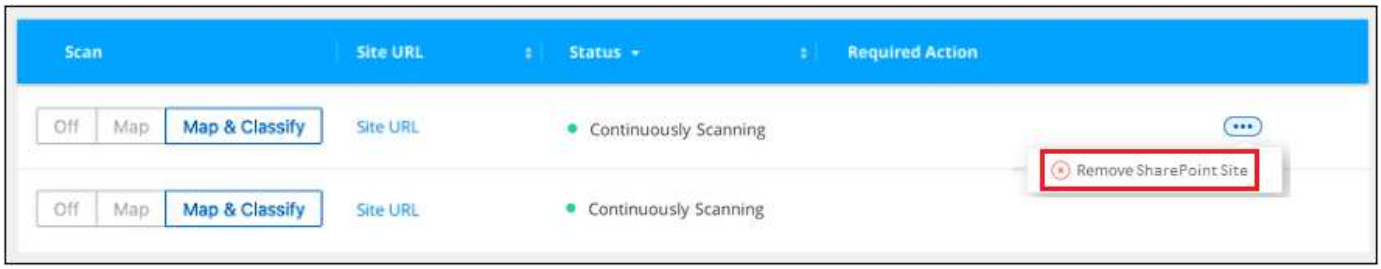
終了：	手順：
ファイルのマッピングのみのスキャンを有効にします	[* マップ *] をクリックします
ファイルのフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
ファイルのスキャンを無効にします	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類により、追加したSharePointサイト内のファイルのスキャンが開始され、その結果がダッシュボードと他の場所に表示されます。

コンプライアンススキャンから**SharePoint**サイトを削除する

今後 SharePoint サイトを削除する場合や、 SharePoint サイト内のファイルをスキャンしない場合は、個々の SharePoint サイトのファイルがいつでもスキャンされないようにすることができます。[構成] ページで [SharePoint サイトの削除] をクリックします。



できることに注意してください "BlueXP分類からSharePointアカウント全体を削除します" SharePointアカウントからユーザーデータをスキャンする必要がなくなった場合。

Googleドライブアカウントのスキャン

BlueXP分類を使用してGoogleドライブアカウントのユーザファイルのスキャンを開始するには、いくつかの手順を実行します。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1 **Google**ドライブの前提条件を確認します

Googleドライブアカウントにログインするための管理者資格情報があることを確認します。

BlueXP分類を導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

Googleドライブアカウントにログインします

Adminユーザのクレデンシャルを使用して、アクセスするGoogle Driveアカウントにログインし、新しいデータソースとして追加します。

ユーザファイルのスキャンタイプを選択します

ユーザファイルで実行するスキャンのタイプ（マッピングまたはマッピングおよび分類）を選択します。

Googleドライブの要件を確認する

次の前提条件を確認して、Google DriveアカウントでBlueXPの分類を有効にする準備ができていることを確認してください。

- ユーザのファイルへの読み取りアクセスを提供するGoogle Driveアカウントの管理者ログインクレデンシャルが必要です

現在の制限

BlueXPの次の分類機能は、現在Google Driveファイルではサポートされていません。

- [データ調査]ページでファイルを表示している場合、ボタンバーのアクションはアクティブになりません。ファイルのコピー、移動、削除などはできません。
- Googleドライブ内のファイル内で権限を識別できないため、［調査］ページに権限情報は表示されません。

BlueXP分類を導入します

導入されているインスタンスがない場合は、BlueXP分類を導入します。

BlueXPには次のように分類できます "クラウドに導入" または "インターネットにアクセスできるオンプレミスの場所"。

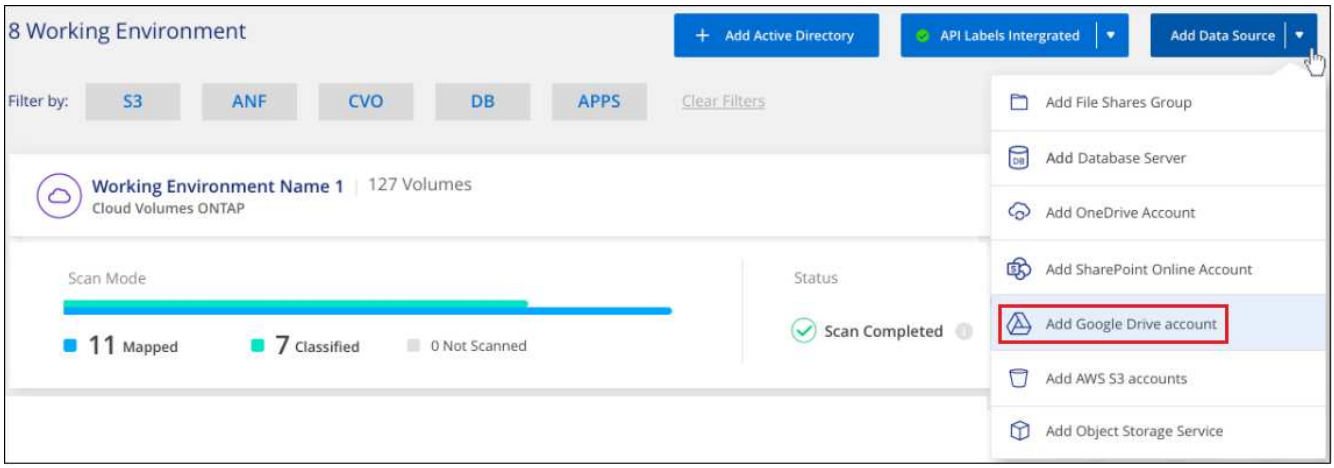
インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

Googleドライブアカウントを追加する

ユーザーファイルが存在するGoogleドライブアカウントを追加します。複数のユーザーからファイルをスキャンする場合は、ユーザーごとにこの手順を実行する必要があります。

手順

1. [作業環境の構成]ページで、[データソースの追加>* Googleドライブアカウントの追加*]をクリックします。



2. [Googleドライブアカウントの追加]ダイアログで、[Googleドライブへのサインイン*]をクリックします。
3. 表示された[Google]ページで、Google Driveアカウントを選択して必要な管理者ユーザとパスワードを入力し、*[同意する]*をクリックしてBlueXP分類によるこのアカウントからのデータの読み取りを許可します。

Googleドライブアカウントが作業環境のリストに追加されます。

ユーザデータのスキャンのタイプを選択します

BlueXPで分類されるユーザのデータに対して実行するスキャンのタイプを選択します。

手順

1. _Configuration_pageで、Google Driveアカウントの* Configuration *ボタンをクリックします。

2. Google Driveアカウントのファイルに対して、マッピング専用スキャンまたはマッピングおよび分類スキャンを有効にします。

終了：	手順：
ファイルのマッピングのみのスキャンを有効にします	[* マップ *] をクリックします
ファイルのフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
ファイルのスキャンを無効にします	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類により、追加したGoogle Driveアカウント内のファイルのスキャンが開始され、その結果がダッシュボードと他の場所に表示されます。

Google Driveアカウントをコンプライアンススキャンから削除する

1人のユーザーのGoogleドライブファイルのみが1つのGoogleドライブアカウントの一部であるため、ユーザーのGoogleドライブアカウントからのファイルのスキャンを停止する場合は、次の手順を実行します "BlueXP分類からGoogle Driveアカウントを削除します"。

S3プロトコルを使用するオブジェクトストレージをスキャンする

いくつかの手順を実行して、BlueXPの分類を使用してオブジェクトストレージ内のデータの直接スキャンを開始します。BlueXPの分類では、Simple Storage Service（S3）プロトコルを使用する任意のオブジェクトストレージサービスのデータをスキャンできます。これには、NetApp StorageGRID 、IBM Cloud Object Store、Linode、B2クラウドストレージ、Amazon S3などが含まれます。

*注*この情報は、BlueXPの旧バージョン1.30以前の分類にのみ関連します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

1 オブジェクトストレージの前提条件を確認する

オブジェクトストレージサービスに接続するには、エンドポイント URL が必要です。

BlueXP分類でバケットにアクセスできるように、オブジェクトストレージプロバイダのアクセスキーとシークレットキーが必要です。

2 **BlueXP**分類インスタンスを導入します

"BlueXP分類を導入します" インスタンスが展開されていない場合。

3 オブジェクトストレージサービスを追加します

オブジェクトストレージサービスをBlueXP分類に追加します。

4 スキャンするバケットを選択します

スキャンするバケットを選択すると、BlueXPの分類によってスキャンが開始されます。

オブジェクトストレージ要件の確認

BlueXPの分類を有効にする前に、次の前提条件を確認して、サポートされる構成があることを確認してください。

- オブジェクトストレージサービスに接続するには、エンドポイント URL が必要です。
- BlueXP分類でバケットにアクセスできるように、オブジェクトストレージプロバイダのアクセスキーとシークレットキーが必要です。

BlueXP分類インスタンスの導入

導入されているインスタンスがない場合は、BlueXP分類を導入します。

インターネット経由でアクセス可能な S3 オブジェクトストレージからデータをスキャンする場合は、を実行します "BlueXPの分類機能をクラウドに導入します" または "インターネットにアクセスできるオンプレミスの場所にBlueXPの分類を導入します"。

インターネットにアクセスできないダークサイトにインストールされている S3 オブジェクトストレージからデータをスキャンする場合は、が必要です "インターネットアクセスのないオンプレミスと同じ場所にBlueXPの分類を導入します"。また、BlueXPコネクタがオンプレミスの同じ場所に配置されている必要があります。

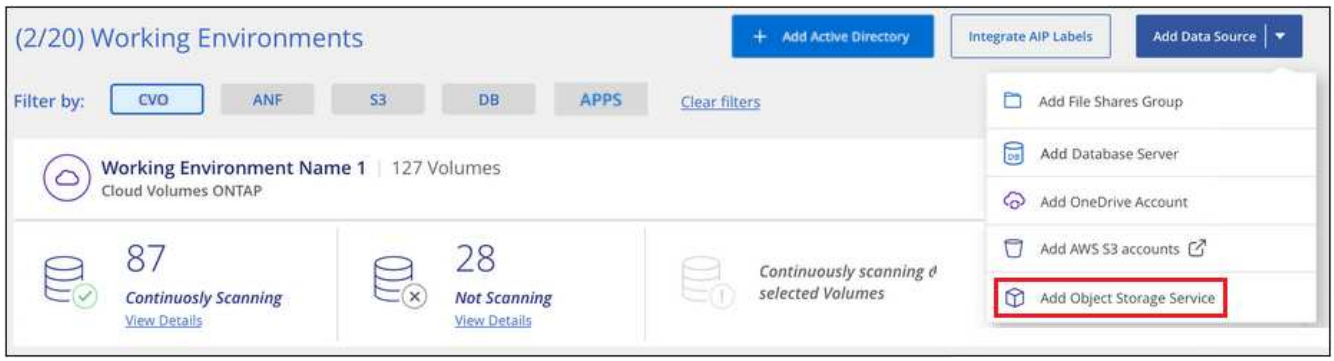
インスタンスがインターネットに接続されていれば、BlueXP分類ソフトウェアへのアップグレードは自動で実行されます。

オブジェクトストレージサービスをBlueXP分類に追加しています

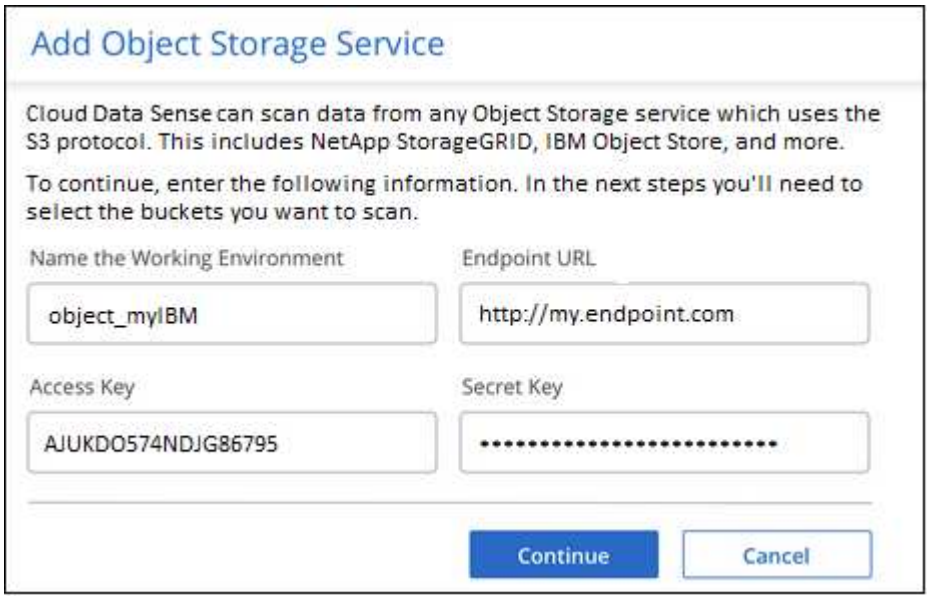
オブジェクトストレージサービスを追加します。

手順

1. [作業環境の構成] ページで、 [* データソースの追加 > オブジェクトストレージサービスの追加 *] をクリックします。



2. Add Object Storage Service ダイアログで、オブジェクトストレージサービスの詳細を入力し、 * Continue * をクリックします。
   a. 作業環境に使用する名前を入力します。この名前には、接続先のオブジェクトストレージサービスの名前を指定する必要があります。
   b. エンドポイントの URL を入力してオブジェクトストレージサービスにアクセスします。
   c. [Access Key]と[Secret Key]を入力して、BlueXPの分類がオブジェクトストレージ内のバケットにアクセスできるようにします。



結果

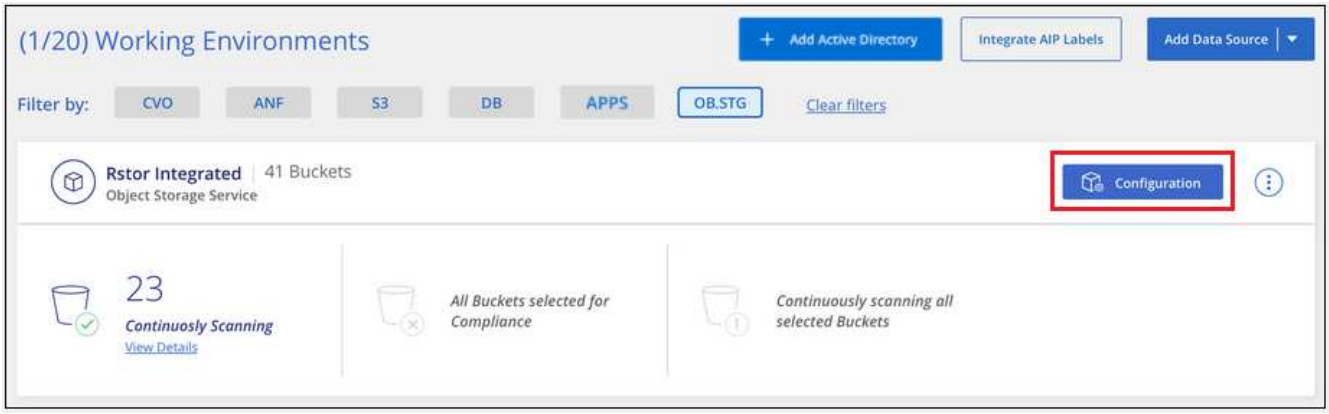
新しいオブジェクトストレージサービスが作業環境のリストに追加されます。

オブジェクトストレージバケットでの準拠スキャンの有効化と無効化

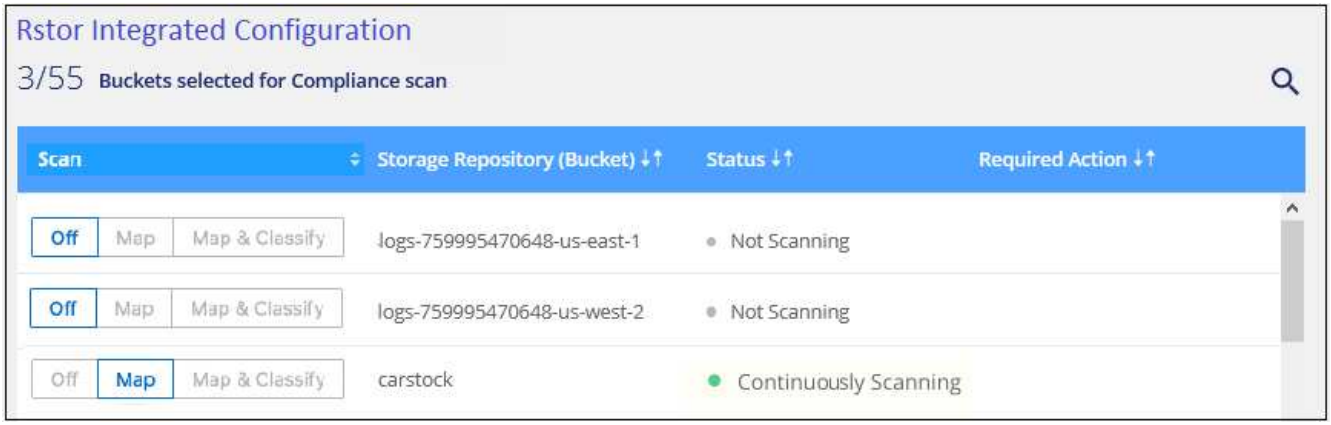
オブジェクトストレージサービスでBlueXPの分類を有効にしたら、次の手順でスキャンするバケットを設定します。BlueXPの分類により、該当するバケットが検出され、作成した作業環境に表示されます。

手順

1. 設定ページで、 Object Storage Service 作業環境の * 設定 * をクリックします。



2. バケットでマッピング専用スキャン、またはマッピングスキャンと分類スキャンを有効にします。



終了：	手順：
バケットでマッピングのみのスキャンを有効にする	[* マップ *] をクリックします
バケットでフルスキャンを有効にします	[マップと分類 *] をクリックします
バケットに対するスキャンを無効にする	[* Off *] をクリックします

結果

BlueXPの分類で、有効にしたバケットのスキャンが開始されます。エラーが発生した場合は、エラーを修正するために必要なアクションとともに、 [ステータス] 列に表示されます。

著作権に関する情報

商標に関する情報